

火の魂の仲間たち、いつも本当にありがとう。

この12月の手紙でまた一年が終わり、新たな一年がすぐ始まります。気がつくとき火の魂カンパニーも12回目の正月を迎えることになります。こうやって年数を積み重ねていくと、少しずつですが会社が強くなっていくのを実感するし、その会社の強さは働く人の成長に比例しているのがよく分かる。そのためにも会社のトップである私が先頭に立って成長して行きます。今年も残りわずか終わりよければ全てよし、前を向き進んでいきましょう！

さて、今月も社長からの手紙を綴っていきたいと思う。

12月の時期になるといつも考えていることでもあるし、毎年大切にしていることがある。

それは来年を最高の一年にするために、12月という「年の節目をどうめるのか？」と、そして「新たな一年をどう迎えるか？」を大切にしています。これは最高の人生にするためにも大切な考え方と心構えであり、私も毎年、大切にしていることなので、良いなと思った人は是非とも真似してほしい。殆どの人が、正月を迎える時に「今年が良い一年にしたい」と「初詣」や「初日の出」などで手を合わせて願いを込めると思う。

勿論、私も初詣や初日の出を見る時に、様々な願いを込めて手を合わせます。例えば、家族の健康のこと、会社のこと、プライベートのことなど、「こんな一年にしたい」という理想を願うと思う。一年のスタートには大抵の人がそんなことを願うのが正月だったりするよね。人生を良いものにしていく人や、幸せな人生を送る人の多くは、1月1日のスタートよりも、12月31日の過ごし方を非常に大切にしている。それは1月1日に願掛けしたことを「願えばなし」にせず、12月31日に一年を確り振り返り、半分でも出来たことや、少しでも叶ったことを思い返し、確りと「感謝」することを大切にしているのです。1月1日の正月や初日の出に「神様よろしくお祈りします」と願うならば、12月31日の大晦日や夕日に「神様ありがとうございました」の感謝の気持ちや一年の振り返りの報告を大切にしてほしい。そんな心の人には周りに感謝できるし、身近な人の支えが合っている今の自分が生きていることにも気がつけるし、身近にいる大切な人の存在が「当たり前」に思うこともなく、「いつも本当にありがとう」と思えてくるものです。

最高の人生は創るだけでなく「手の中にあることに気がつくこと」だと思えます。